

文芸

投稿は投稿者の住所、電話番号を記入し、役場広報係まで。締切は毎月15日(必着)です。漢字にはふりがなを記入し、数種類に投稿する場合は別にしてください。広報投稿作品の、他への重複投稿はご遠慮ください。

短歌

末武 有二 選

修復のなりし鳥居の清すがし新藁匂ふ太き注連縄

安永 守住 孝子

晩秋の空仰ぎ咲く白い花 秋明菊の清楚な姿

寺迫 今村 文子

山間の段々畑は夕暮れて家路を急ぐ軽トラ走る

宮園 島 みつき

耳遠い夫婦の会話すれちがい苛立つ思い笑に紛らす

安永 川野 光子

過ぎし日はまぼろしなるか兄逝きて思い出なぞる日々は悲しき

惣領 島田 廣子

平成の園遊会も最後です 居住まい正し居間で拝見

広崎 瀬戸サイ子

帰り来ぬ人の更地に植えられたケイトウ花は紅に燃え

宮園 金子フム子

来慣れたる庭木に今日も挨拶の尾を振る鵲我に近しく

惣領 鎌田 正吾

晩秋の阿蘇路の旅は薄枯れ白い穂波が果てなく続く

赤井 鈴木 駒

歓びに組は総出でお祝い日競って拾う棟上げの餅

赤井 増岡 伸禧

朝露を踏めば聞こえる虫の声太陽まぶし今日は立冬

小谷 今吉マキ子

お願い

投稿は、一人一首でお願いします。

俳句

河野 全平 選

紅葉山雲がかくせば雨が降る

馬水 西田 正巳

九州場所のぼりはためき冬きたる

平田 城 陶子

天高しやつと迎えた地鎮祭

寺迫 今村 文子

新米の炊き立てごはん塩むすび

惣領 阪口由美子

来ぬバスを待って一人の秋の暮れ

小谷 今吉マキ子

飛行雲横に描きたい秋の空

赤井 西山恵美子

柿もみぢ実も照り映えてたわわなり

惣領 鎌田 正吾

小春日や新築報告亡夫の忌

木山 山口サツキ

同級生紅葉の丘に忌を修す

田原 辻ヶ峰子

一句鑑賞

納屋奥に爺様の火鉢深ねむり

佐藤 澄世

川柳

布田川左門 選

『お題』 鴨わたる

ネギしよってせつせと通う遊技店

すいすい

木枯らし一号拉致は風化し鴨わたる

やぶにらみ

肥満鴨滑走するが飛びきらん

まさのり

※参考例

鴨わたる冬だ冬だと鴨わたる

『お題』 自由詠

朝帰り亭主冷や飯食って寝る

すいすい

プーチンに会った回数だけ自慢

まさみ

ママが好きだってパパより強いもの

まさのり

※参考例

羽生将棋 羽生スケート世界一

川柳のお題 「元号」

木山神宮は戦争や火災により文献やその他の資料が失われているため、創建や祭礼の多くは不明です。文政六(一八二三年)の記録によれば、自然神として五穀豊穡や無病息災を祈願するために祭られたものが中世期に阿蘇神社の末社となり、天照大御神から神武天皇までの六代の宮が勧請され、「木山宮六殿宮大明神」と称されたようです。

もともと地域神であったものが時代とともに木山郷の郷社として位置づけられるようになったと想定されます。「木山宮」と略して称されるようになるのは江戸時代以降です。

平成28年熊本地震で境内の鳥居、神門、拝殿、本殿が倒壊しました。屋根を残して倒壊した本殿の痛々しい姿は熊本地震を象徴するものとして全国に報道されました。地震で外れた木鼻(寺社建築の装飾の一つ)から、社

益城の文化財
町文化財保護委員会

掘
益城

木 山

木山神宮境内